

エヌビディア(NVDA)

【セクター】 半導体

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

米国の半導体メーカーです。コンピュータで画像表示をスムーズにするために用いられる半導体であるGPU（グラフィック・プロセッシング・ユニット）が主力で売上の87%を占め、CPU（セントラル・プロセッシング・ユニット）が13%を占めます（19年1月期）。エンドユーザー別の売上は、ゲームが54%、データセンターが25%、プロ向け画像処理PCが10%、自動車が5%、OEM・IPが6%を占めます（19年1月期）。ニンテンドースイッチ向けのCPUは、OEM・IPに含まれています。

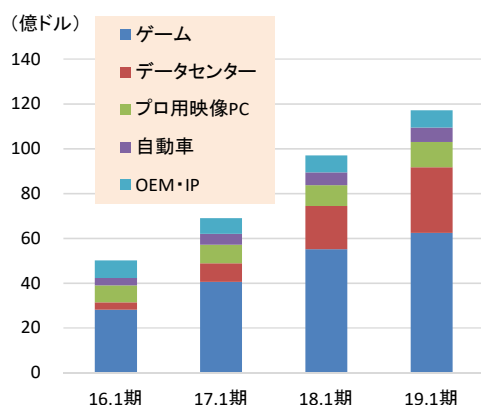
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年1月期	9,714	2,927	4.63	0.57	12.3	44.2	66.5
19年1月期	11,716	3,810	6.10	0.61	15.4	45.3	70.3
20年1月期予想	10,784	3,420	5.43	0.60	19.4	28.8	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

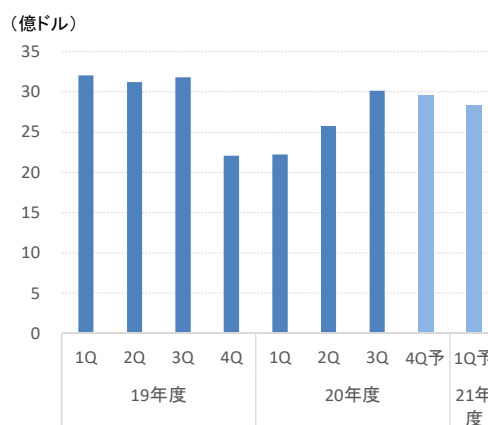
【主要指標】

図表1 エンドユーザー別売上



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 四半期売上の推移・予想



(出所) BloombergデータをもとにSBI証券が作成

【会社の見方】

主力のGPUはコンピュータで画像処理を加速するための「部品」に過ぎませんでしたが、人工知能（AI）の計算に有用と判断して「GPUコンピューティング」の会社に変化しつつあると注目されています。データセンター向けに需要が拡大しているほか、将来的には自動運転コンピュータとしての需要が期待されています。GPUを画像表示でなく数値計算に使用するためにはソフトウェア群が必要で、同社はこれを「CUDA」として2006年から普及に努め、他社が簡単に追いつけないリードを獲得、同市場をほぼ独占しています。

【見通し・注目点】

四半期売上は19年度4Q（18年11月-19年1月期）に底入れして前四半期比で拡大が続いています（図表2）。前年同期比でも20年度4Q（19年11月-20年1月期）はプラスに転換する見通しです。分野別には自動車向けを除く4分野の売上が2四半期連続で前期比増加となっています。21年1月期は、データセンター向けの伸びや自動運転向けの売上がどの程度盛り上がってくるかが注目されます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/11/20)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮してのものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。